

6月定例会・山脇議員の一般質問



米原市民報

日本共産党米原市会議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党米原市会議員
藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

視覚障がい者施策の充実を

山脇議員の一般質問

視覚障がいの福祉充実を求める

山脇議員の一般質問を掲載します。山脇議員は初日10日3番目に一般質問を行いました。

Q、市の健康診査で眼圧検査などを取り入れる必要性についての考えは。
A、現段階では、健診項目の追加、拡充は考えておりません。

Q、国民健康保険人間ドックの受診状況について問う。
A、令和5年度は299人で、40代7人、50代12人、60代以上275人となっています。

Q、視覚障がい者に対する同行援護の利用状況について問う。
A、令和5年度の利用実績は1ヶ月平均3人、約14時間の利用で医療受診が主な利用目的です。利用者が少ない要因は、多くの人が、介護保険サービスの利用や、家族支援などにより日常生活を送られていると考えています。

Q、その他の障がい福祉サービスの利用状況については。
A、視覚障がいのある人の障害福祉サービス利用について、支給決定を受けておられる人は10人です。

Q、視覚障がい対象の日常生活用具の利用状況について問う。
A、「視覚障がい者用体重計」「情報・通信支援用具」「視覚障がい者用拡大読書器」「視覚障がい者用時計」の4品目のほか、「音声式血圧計」「歩行時間延長信号機用小型送信機」「点字ディスプレイ」など、合計18品目あります。これらから日常生活用具の給付項目の追加については、柔軟に取り組んでおり、今後もご相談等お受けしましたら、

必要性を検証し、給付項目の追加を行ってまいります。
Q、音響式信号機の市内設置数はいくつか。
A、米原警察署に確認したところ、音響式信号機は市内に8か所設置されています。

Q、だれもが安全に渡れる信号装置の設置促進を問う。
A、LED付音響装置については、設置の計画は無いとのことでした。視覚障がい者だけではなく、歩行者の近くで音と光で知らせることにより、全ての歩行者に対しての注意喚起の効果もあると考えてられます。

Q、視覚障がい者に特化した音声付支援ハンドブックの作成の現状を問う。
A、書類に印字されたQRコードを、スマートフォンで読み取ることで書類の内容を音声で聞くことができる取り組みを令和6年3月から始めました。専用アプリをダウンロードすることで利用ができ、比較的容易に情報を得ることができるところから、今後拡大を図ってきたいと考えております。

Q、碓高溝顔戸線の未整備区間(40m)の着工について問う。
A、交通安全対策や、交通量予測など客観的なデータなども用いて、地元住民の不安を取り除けるような道路整備についての話し合いを進めたいと考えております。事業費については、測量設計費と工事費で1億円程度と見込んでおります。完了までに5年程度必要と考えています。

道路未整備区間の早期着工を

Q、道の碓高溝顔戸線は、平成2年に取得した1筆については坂田郡近江町で、残り4筆は、米原市です。
Q、県のプログラムとの整合性について問う。
A、市道碓高溝顔戸線は、地域間を連携し、まちの骨格となる幹線道路であり、整備の優先度が高い道路と認識しております。

学校の猛暑対策は

Q、2学期の8月末始業の決定理由は何か。
A、始業式を含む3日間を午前中の授業にすることで、児童生徒の体を登下校や学校生活に徐々に慣らしにくねらいがあります。また、このことは教職員の働き方改革の観点から、この3日間の午後を学期初めの教職員の事務処理時間として確保することもねらいとしてあります。

Q、標準授業時間数から見ると小中学校各学年の授業時間数の過不足はあるのか。
A、本市の小中学校における令和5年度の年間授業時間数は、国が示す標準授業時数を確保することができています。
Q、子どもの生命と健康を守るために、品不足の熱中症指数計の確保を問う。
A、市内小中学校に合計54台が使用されています。今後も暑さ指数に応じた熱中症予防が行えるよう、各学校と連携して取り組んでまいります。

